

# 日本子ども社会学会 第23回大会 プログラム

2016年6月4日(土)・6月5日(日)

琉球大学

## ●放送大学テキスト

好評発売中

### 道徳教育の理念と実践

押谷由夫・永田繁雄・新井浅浩・諸富祥彦  
西野真由美 2016年発行 ¥2,900+税

### カリキュラムと学習過程

浅沼茂・奈須正裕・北村和夫・成田幸夫  
久野弘幸 2016年発行 ¥2,700+税

### 学校と法 [改訂版]

坂田仰・岩橋健定・黒川雅子・山田知代  
2016年発行 ¥2,300+税

### 現代日本の教師

元布佐和子・岩立京子・佐久間亜紀  
元兼正浩 2015年発行 ¥2,700+税

### 幼児教育の指導法

師岡章・佐久間路子・田中浩二  
2015年発行 ¥2,700+税

### 人間発達論特論

住田正樹・田中理絵  
2015年発行 ¥3,200+税

### 教育学入門 - 教育を科学するとは -

岡崎友典・永井聖二・富江英俊・加藤理  
2015年発行 ¥2,600+税

### 乳幼児の保育・教育 [新訂]

岡崎友典・梅沢実・井上清美・押元信幸  
芦田川祐子 2015年発行 ¥2,300+税

### 教育の社会学

近藤博之・岩井八郎・木村涼子・中澤涉  
大多和直樹 2015年発行 ¥2,700+税

### 道徳教育の方法

堺正之  
2015年発行 ¥2,300+税

### 家庭教育論

住田正樹・天童睦子・田中理絵  
2012年発行 ¥2,400+税

### 地域社会の教育的再編

岡崎友典・夏秋英房  
2012年発行 ¥2,600+税

### 児童・生徒指導の理論と実践

住田正樹・岡崎友典・伊藤亜矢子・  
田中理絵 2011年発行 ¥2,500+税

### 子ども・若者の文化と教育

武内清・岩田弘三・明石要一・天童睦子  
小針誠 2011年発行 ¥2,300+税

### 教育と社会

岩永雅也  
2011年発行 ¥2,600+税

### 教育文化論特論

鈴木晶子  
2011年発行 ¥2,400+税

### 現代教育改革論

江原武一・南部広孝・深堀聰子・  
服部美奈 2011年発行 ¥2,500+税

### コミュニティ教育論

岡崎友典・玉井康之  
2010年発行 ¥2,600+税

### 地域教育の創造と展開

岡崎友典・高島秀樹・夏秋英房  
2008年発行 ¥3,000+税

### 学校教育論

田中統治・庄司一子・浜田博文  
2008年発行 ¥2,200+税

●ご希望の方に「図書目録」をお送りします。詳しくは [www.ua-book.or.jp](http://www.ua-book.or.jp)



一般  
財団  
法人

放送大学教育振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-14-1

TEL 03-3502-2750

FAX 03-3592-2482

## 日本子ども社会学会 第23回大会 プログラム

1. 期日 2016年6月4日(土)・5日(日) 2日間
2. 会場 琉球大学(千原キャンパス・共通教育棟)
3. 日程
  - 前日 6月3日(金)
    - 15:00～16:50 各種委員会(1号館～2号館各教室)
    - 17:00～19:00 理事会(1号館2階大会議室)

※監査につきましては1号館1階 URGCC 推進支援室にて行います。
  - 第1日 6月4日(土)
    - 9:00～ 受付(1号館1階 玄関)
    - 9:30～12:00 研究発表Ⅰ(1、2号館 1～2階)
    - 12:00～12:50 総会(1号館1階1-118教室)
    - 12:50～13:40 昼食
    - 13:40～15:40 研究発表Ⅱ(1、2号館1～2階)
    - 15:50～17:50 テーマセッション(1号館1～2階)
    - 18:00～20:00 懇親会(生協中央食堂)
  - 第2日 6月5日(日)
    - 9:00～ 受付(1号館1階 玄関)
    - 9:30～12:00 研究発表Ⅲ(1、2号館 1～2階)
    - 12:00～13:20 昼食
    - 評議会(1号館2階大会議室)
    - 各種委員会(1、2号館 1～2階)
    - 13:20～15:20 公開シンポジウム(1号館1階1-118教室)
    - 15:30～17:30 ラウンドテーブル(1、2号館 1～2階)
4. 大会参加費 一般会員：4000円 大学院生(会員)：3000円  
臨時(当日)会員：4000円
5. 懇親会 6月4日(土) 琉球大学 中央食堂  
会費 一般会員：4000円 大学院生(会員)：3000円
6. 発表時間  
個人発表：発表20分・質疑応答5分  
共同発表：発表40分・質疑応答10分

## 7. 発表取り消し

発表の取り消し、および発表日時の変更は原則として認めていません。発表の取り消しの場合は、早急にお知らせください。

## 8. 当日発表資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合は、50部以上ご用意ください。不足の場合、大会本部でのコピーはできません。学内及び近隣にコピーできる場所はありません。

## 9. クローク

6月4日(土)、5日(日)に、18時まで、1号館1階に用意します。

なお貴重品はお預かりできませんので、各自でお持ち下さい。

## 10. 会員休憩室

2号館 1階 2-100 教室 (その他に会員休憩スペースも2箇所準備します)

## 11. 昼食

4日(土)は学内食堂が営業しています。ただし、メニューは、限定されたものになりますので、ご了承下さい。

5日(日)は学内食堂が営業いたしません。大変恐縮ですが各自お弁当を準備いただきますようお願いいたします。なお参考までに周辺のコンビニや飲食店の地図を当日配布いたします。

## 12. 大会本部

URGCC 推進支援室 (1号館1階玄関入って右側)

## 13. 大会実行委員会連絡先

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 (千原キャンパス)

琉球大学 大学教育センター 西本裕輝 気付

日本子ども社会学会 第23回大会実行委員会

E-mail : hirokin@lab.u-ryukyu.ac.jp (西本裕輝)

電話 : 090-7448-7162 (西本携帯)

電話及び FAX : 098-895-8742 (URGCC 推進支援室 : 担当古堅・宇江城)

## ※ 要旨集録の pdf による配布について

要旨集録は従来通りの冊子の他、pdf ファイルでも配布いたします。日本子ども社会学会ホームページに5月25日頃に掲載する予定です。

学会当日は必要な方にのみ冊子の要旨集録を配布する予定ですので、ぜひ pdf ファイルをご利用ください。

# 琉球大学へのアクセス

## ■那覇バスターミナルから大学へ

路線バス（琉大附属病院経由）（20～30分に1本）

**97** 番線（琉大線）那覇バス株式会社

所要時間：約50分

のりば：市外線那覇バスターミナル4番ホーム  
 経路：那覇バスターミナル→国際通り（牧志）→儀保（首里）  
 →琉大附属病院→琉大東口→琉大北口（終点）

料金：610円

路線バス（バイパス経由）（20～30分に1本）

**98** 番線（琉大線）琉球バス株式会社

所要時間：約40分

のりば：旭橋バス停  
 経路：那覇バスターミナル→国際通り（牧志）→  
 バイパス→真栄原→冲国大前→琉大北口（終点）

料金：610円

## ■那覇空港から大学へ

**111 113 123** 番線【高速バス】（1時間に1本）

琉球バス、沖縄バス、那覇バス、東陽バスの4社が交互運行

所要時間：約45分

経路：那覇空港→沖縄自動車道→琉大入口下車  
 （下車後、琉球大学北口まで徒歩で約4分）

料金：740円

## ■モノレールで琉球大学へ



[http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ\\_info/general/access/](http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/access/)より



# 会場案内図

## 1号館1階

1-118教室：研究発表I-1部会，総会，研究発表II-1部会，テーマセッションI，  
研究発表III-1部会，公開シンポジウム，ラウンドテーブルIII  
大会本部（URGCC推進支援室）：会計監査  
受付  
クローク

## 1号館2階

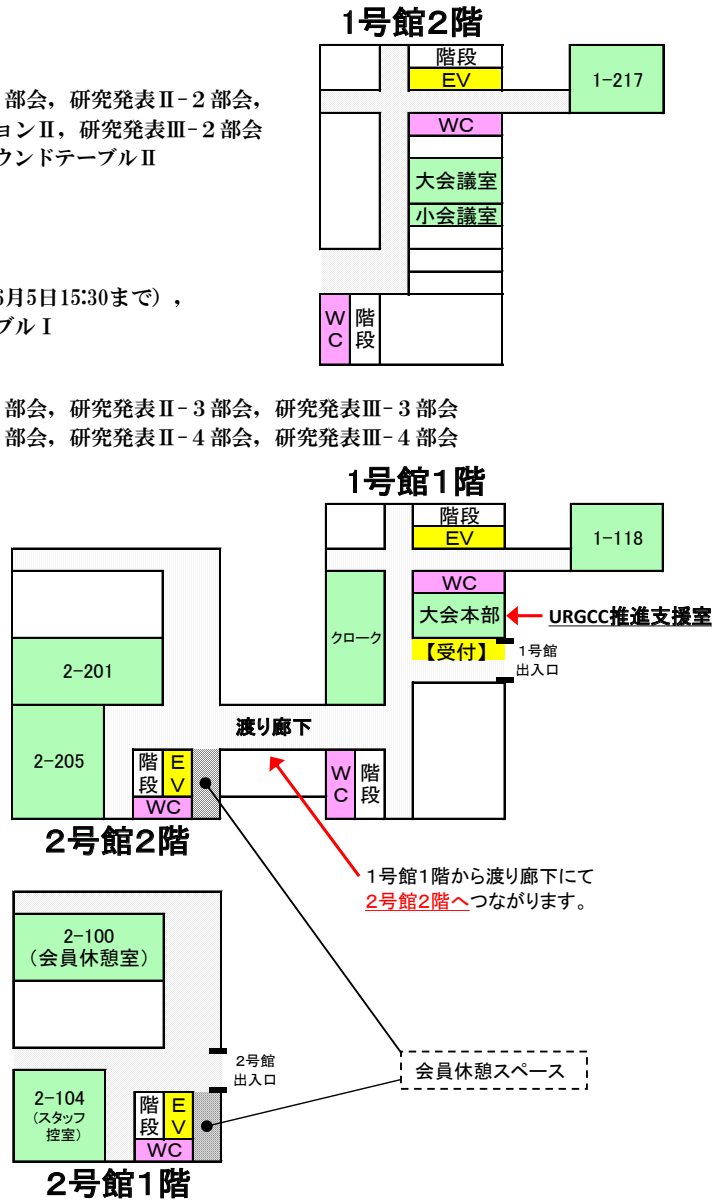
1-217教室：研究発表I-2部会，研究発表II-2部会，  
テーマセッションII，研究発表III-2部会  
大会議室：理事会，評議会，ラウンドテーブルII

## 2号館1階

2-100教室：会員休憩室（6月5日15:30まで），  
ラウンドテーブルI

## 2号館2階

2-201教室：研究発表I-3部会，研究発表II-3部会，研究発表III-3部会  
2-205教室：研究発表I-4部会，研究発表II-4部会，研究発表III-4部会



※ラウンドテーブルの教室は，参加人数により変更になることがあります。  
※各種委員会の教室は，追ってご連絡いたします。

研究発表 I

2016年6月4日(土) 9時30分～12時  
1号館 1階 1-118教室

I-1 【子どもの人権(1)】

司会 加藤 理(文教大学)

9時30分～9時55分

労働をめぐる子どもの人権論・権利論の変容

尾川 満宏(愛媛大学)

9時55分～10時20分

沖縄の子どもの貧困対策をめぐる動向

嘉納 英明(名桜大学)

10時20分～10時45分

就学前教育を受ける「権利」をめぐって

—児童養護施設の子どもの幼児期から考える—

坪井 瞳(浦和大学)

10時45分～11時10分

幼児の人権を尊重する保育者の養成とは

—養成期における実習前後の保育者効力感に関するシステマティックレビューより

香曾我部 琢(宮城教育大学)

11時10分～12時

総括討論



研究発表 I

2016年6月4日(土) 9時30分～12時  
1号館 2階 1-217 教室

I-2 【保育者】

司会 上田 敏丈 (名古屋市立大学)

9時30分～9時55分

「待つ」という保育者の専門性

吉田 貴子 (花園大学)

9時55分～10時20分

保育者養成校における「児童文化」「子ども文化」の取り扱いにおける問題と課題

○小島 千恵子 (名古屋短期大学)

田中 卓也 (共栄大学)

和田 真由美 (姫路大学)

10時20分～10時45分

保育専攻学生の実態と保育者効力感の関連

川村 高弘 (神戸女子短期大学)

10時45分～11時10分

保育者の離職と就労の継続

一育児休業明け保育者の職業的役割の葛藤に着目して一

中井 雅子 (十文字学園女子大学)

11時10分～11時35分

保育者養成における紙芝居に関する研究

山本 聡子 (名古屋柳城短期大学)

11時35分～12時

総括討論

研究発表 I

2016年6月4日(土) 9時30分～12時  
2号館 2階 2-201 教室

I-3 【教育問題】

司会 田中 理絵 (山口大学)

9時30分～9時55分

「子ども主体のいじめ防止・解決プログラム」の研究開発  
松下 一世 (佐賀大学)

9時55分～10時20分

小学生の外見コンプレックスといじめ被害傾向の関連性の検証  
—仲間集団への関わり方に着目して—  
鈴木 翔 (東京大学大学院・秋田大学)

10時20分～10時45分

小学生における防犯モラルジレンマに関する研究  
宮田 美恵子 (順天堂大学)

10時45分～11時10分

「学校問題」における「子ども／大人」関係の構図と論理  
池田 隆英 (岡山県立大学)

11時10分～12時

総括討論

研究発表 I

2016年6月4日(土) 9時30分～12時  
2号館 2階 2-205 教室

I-4 【教育における多様なニーズ】

司会 片山 悠樹 (愛知教育大学)

9時30分～9時55分

障害のある子どもの放課後生活の場としての放課後等児童デイサービスに関する  
一考察

三好 正彦 (大阪女子短期大学)

9時55分～10時20分

卒業生が語るフリースクール経験

藤村 晃成 (広島大学大学院)

10時20分～10時45分

工業高校の職業指導におけるキャリア教育の影響

尾場 友和 (大阪商業大学)

10時45分～12時

総括討論

研究発表Ⅱ

2016年6月4日(土) 13時40分～15時40分  
1号館 1階 1-118教室

Ⅱ-1 【子どもの人権(2)】

司会 尾川 満宏(愛媛大学)

13時40分～14時05分

欧州評議会の「子どもの性的搾取及び性的虐待からの保護に関する条約」に関する  
一考察——条約履行状況及びモニタリング制度に着目して——  
見原 礼子(長崎大学)

14時05分～14時30分

日本児童愛護連盟の前姿としての大阪愛護連盟の活動  
和田 真由美(姫路大学)

14時30分～14時55分

児童養護における「子どもの人権問題」の系譜  
——全養協「子どもの人権を守る集会」(1968-80年)の分析から——  
土屋 敦(徳島大学)

14時55分～15時40分

総括討論

研究発表Ⅱ

2016年6月4日(土) 13時40分～15時40分  
1号館 2階 1-217教室

Ⅱ-2 【幼児】

司会 香曾我部 琢 (宮城教育大学)

13時40分～14時05分

子育て支援のカリキュラムにおける幼児の主体性の形成過程  
－秋田県かづの・ファミリー・サポート・センターの事例－  
竹村 直記 (上智大学大学院)

14時05分～14時30分

幼児の就学前学力と保育者による個性理解との関連性  
高木 誠一 (国際武道大学)

14時30分～15時20分

現代において「子ども社会」の再生は可能か  
－保育施設における子ども集団の創成に向けて－  
○小川 博久 (東京学芸大学 (名))  
○岩田 遵子 (東京都市大学)

15時20分～15時40分

総括討論

研究発表Ⅱ

2016年6月4日(土) 13時40分～15時40分  
2号館 2階 2-201教室

Ⅱ-3 【教育における語り】

司会 西本 佳代(香川大学)

13時40分～14時05分

「教室童話」で語られた望ましい人間像

—金沢嘉市の低学年・中学年向け童話台本の分析から

中村 美和子(お茶の水女子大学大学院)

14時05分～14時30分

休職経験を有する教師のライフヒストリー

○伊勢本 大(広島大学大学院)

山田 浩之(広島大学)

14時30分～14時55分

幼稚園の預かり保育における「公共性」構築過程に関する一考察

—保育者による語りを手がかりに

清水 美紀(お茶の水女子大学大学院)

14時55分～15時20分

幼児の道具使用による自然環境へのかかわりの広がり と 深まり (2)

—「よみたん自然学校(沖縄県読谷村)」の保育実践より—

○高橋 健介(東洋大学)

小倉 宏樹(よみたん自然学校)

請川 滋大(日本女子大学)

竹村 直記(上智大学大学院)

15時20分～15時40分

総括討論

研究発表Ⅱ

2016年6月4日(土) 13時40分～15時40分  
2号館 2階 2-205教室

Ⅱ-4 【メディア分析】

司会 馬居 政幸(馬居教育調査研究所)

13時40分～14時05分

光文社発刊雑誌『少女』に関する読者像と読者の意識形成  
田中 卓也(共栄大学)

14時05分～14時30分

新聞記事に見る“子どものふれあい動物活動”  
百瀬 ユカリ(大東文化大学)

14時30分～14時55分

KJ法型園内研修の現状と課題：保育者向け情報誌の分析から  
○境 愛一郎(宮城学院女子大学)  
中坪 史典(広島大学大学院)  
濱名 潔(まちの保育園)  
保木井 哲史(広島大学大学院)

14時55分～15時20分

第二の〈子ども〉の誕生から第三の〈子ども〉の誕生へ  
— 戦後日本における子ども像の変化  
山田 浩之(広島大学)

15時20分～15時40分

総括討論

## テーマセッション I

2016年6月4日(土) 15時50分～17時50分

1号館 1階 1-118教室

### 【テーマ】

子ども・若者と政治

### 【話題提供者】

東野 充成 (九州工業大学・研究交流委員会委員)

「子ども・若者の政治参加と子ども観・若者観の転換」

板山 勝樹 (名桜大学)

「沖縄県の抱える政治的課題と県民の意識」

### 【指定討論者】

内田 康弘 (名古屋大学大学院生・研究交流委員会委員)

玉木 愛 (名桜大学学部生)

### 【ファシリテーター】

元森 絵里子 (明治学院大学・研究交流委員会委員)

### 【企画趣旨】

日本では従来、子どもや若者を政治の主体と見なす視点が弱かった。欧米諸国に比べると学校教育においても政治に関わる教育は貧弱であった。しかし、ここ数年、子ども・若者における政治の主体としての側面が急激にクローズアップされている。2015年6月の公職選挙法改正により、2016年夏の参議院選挙から選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられ、それに伴って成人年齢の引き下げも議論されるようになった。また、2015年安全保障関連法案への反対運動では、SEALDsに代表される若者たちの社会運動の盛り上がりにより注目が集まった。特に、本大会の開催地である沖縄では、基地問題という極めて重大な政治的課題も抱えている。学校教育においては、教科「公共」の創設や主権者教育の必要性の高まり、高校生の政治活動を容認する動きもみられ、教員や高校生自身がそれらにどう対応すべきかが教育現場の大きな課題となっている。実際、いくつかの高校ではこうした流れを受けて校内で模擬選挙を行っており、教育現場ではこの制度的変化に対して切実な対応が求められている。こうした昨今の社会的動向をふまえ、本テーマセッションでは、大人／子どもの区分という子ども社会研究における原理的問題を意識しつつ、上記の制度改革の現状を確認したうえで、それらが教育現場や社会にいかなる影響をもたしめるのか議論する。



## テーマセッションⅡ

2016年6月4日(土) 15時50分～17時50分  
1号館 2階 2-217教室

### 【テーマ】

学校化される子ども・若者の身体  
—アジアの国々との比較から—

### 【話題提供者】

黄 順姫 (筑波大学)

「日本・韓国の教育が構築する学校的身体と同窓つながり」

シム・チュン・キャット (昭和女子大学)

「学校からみる日本とシンガポールの若者像」

南出 和余 (桃山学院大学)

「バングラデシュ農村社会の「教育第一世代」の子どもたち」

### 【ファシリテーター】

針塚 瑞樹 (別府大学)

多賀 太 (関西大学・研究交流委員会委員)

### 【企画】

渋谷 真樹 (奈良教育大学・研究交流委員会委員)

### 【企画趣旨】

本学会では、海外の子ども・若者に関する研究の成果が豊富に蓄積されているが、従来の学会大会では、ともすれば個別の研究成果の発表にとどまり、各国の子ども・若者のあり方を比較する試みはまだ十分に行われていないように思える。

そこで、本テーマセッションでは、アジア各国出身の会員や、アジア各国の子ども・若者を研究している会員から、自身のフィールドと日本とを比較して研究成果を報告していただくことにした。

今回は、各話題提要者から、近代化のタイミングと学歴社会の成熟度がそれぞれ異なる、韓国、シンガポール、バングラデシュにおける子ども・若者の生活実態や文化についてご報告いただく。

そのうえで、フロアの参加者とともに、各国と日本における子ども・若者のあり方の相違点と共通点や、かれらをめぐる諸問題について、特に社会の「学校化」という視点から議論してみたい。

研究発表Ⅲ

2016年6月5日(日) 9時30分～12時  
1号館 1階 1-118 教室

Ⅲ-1 【子どもの人権(3)】

司会 嘉納 英明(名桜大学)

9時30分～9時55分

子ども支援における暴力の否定に関する考察  
—児童養護施設の暴力問題に焦点を当てて—  
山口 季音(至誠館大学)

9時55分～10時20分

普通の子どもから「障がい児」への変容プロセス  
渡邊 文春(松山大学大学院)

10時20分～10時45分

フリースクールの制度化と不登校擁護運動  
—「強いマイノリティ」と「弱いマイノリティ」への分化を中心に—  
田中 佑弥(武庫川女子大学)

10時45分～11時10分

10代の出産に対する意識からわかること  
梅原 佐知子(東京都立橘高等学校)

11時10分～12時

総括討論

研究発表Ⅲ

2016年6月5日(日) 9時30分～12時  
1号館 2階 1-217教室

Ⅲ-2 【異文化と教育】

司会 望月 重信(明治学院大学(名))

9時30分～9時55分

中国都市部における産育実践の現状とその変化ー産育用具を通して  
翁 文静(九州大学)

9時55分～10時20分

多文化保育の定義に関する研究  
品川 ひろみ(札幌国際大学短期大学部)

10時20分～10時45分

日本人学校の教員という選択  
作田 良三(松山大学)

10時45分～11時10分

米国の保育者は日本の幼稚園における「クラス対抗競技」をどのように捉えるのか?  
中坪 史典(広島大学)

11時10分～12時

総括討論

研究発表Ⅲ

2016年6月5日(日) 9時30分～12時  
2号館 2階 2-201教室

Ⅲ-3 【子どもと家庭・地域】

司会 坪井 瞳 (浦和大学)

9時30分～9時55分

子どもの成育環境における地域ネットワークの拡充に向けて  
春日 清孝 (明治学院大学 (非))

9時55分～10時20分

きょうだい構成は学力に影響を与えるか  
前馬 優策 (大阪大学)

10時20分～10時45分

子どもと地域とのつながりや保護者の学校・地域とのつながりは、子どもの学校生活にどのような影響を及ぼしているのか？

○久保田 真功 (富山大学)  
白松 賢 (愛媛大学)

10時45分～11時35分

地域社会と学校の連携に関する義務教育学校教員の意識と行動  
～長野県佐久市と東京都豊島区の小・中学校教員調査を手懸かりに～

○岡崎 友典 (放送大学 (名))  
○森 俊英 (元石巻市立中学校校長)  
○鈴木 秀男 (東京都台東区教育委員会)

11時35分～12時

総括討論

研究発表Ⅲ

2016年6月5日(日) 9時30分～12時  
2号館 2階 2-205 教室

Ⅲ-4 【教育方法とカリキュラム】

司会 長谷川 祐介 (大分大学)

9時30分～9時55分

教育現場におけるコーチング・アプローチについて  
鳥羽 きよ子 (しぎさん看護専門学校)

9時55分～10時20分

幼保一体化と自己尊重感を育てる保育カリキュラム  
大橋 喜美子 (神戸女子大学)

10時20分～11時10分

デジタル教科書に関する教師と児童・生徒の意識  
—経年比較からそのあり方を考える—  
○武内 清 (敬愛大学)  
○浜島 幸司 (同志社大学)  
谷田川 ルミ (芝浦工業大学)

11時10分～11時35分

児童・生徒のデジタル教科書に対する意識  
—使用経験の有無による比較を中心に—  
谷田川 ルミ (芝浦工業大学)

11時35分～12時

総括討論

2016年6月5日(日) 13時20分～15時20分  
1号館 1階 1-118教室

### 公開シンポジウム

## 沖縄の子育て事情と子ども・子育て支援新制度への対応 —学習指導要領改訂論議を視野に—

登壇者：無藤 隆 (白梅学園大学)  
寶來 生志子 (横浜市こども青少年局)  
宮國 義人 (沖縄県教育委員会 (前))  
末広 尚希 (ライオンの子保育園)  
司 会：馬居 政幸 (馬居教育調査研究所)  
西本 裕輝 (琉球大学)

沖縄県は残念ながら、子育てにおいてさまざまな問題を抱えていると言える。学力が低いことは知られているが、その背景には、出生率1位の一方で失業率1位、離婚率1位、県民所得最下位など、子育ての条件の厳しさもあると考えられる。また小学校入学前の1年間、1年制の公立幼稚園に通い午後から行き場を失ったり二重保育に陥ったりするなど、幼児教育段階での空白期間が生じる「5歳児問題」という沖縄独自の問題も存在している。

そうした中で注目したいのが「子ども・子育て支援新制度」である。平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法に基づくこの制度では、「認定こども園」の充実が重要な柱の一つとなっており、こども園を充実させることにより空白期間が埋められ、解決する沖縄の問題も多いと思われる。

さらに、質の高い保育と教育を共に提供する制度の拡充は、小1プロブレムを解決するスタートカリキュラムを介して、全国の小学校教育に今後求められる新たな資質・能力育成の方法(アクティブラーニング)や教育課程の在り方(カリキュラムマネジメント)にも影響すると考える。「学習指導要領改訂論議を視野に」を副題にした理由である。

このように、本シンポジウムは、沖縄の抱える保育と学力の問題とそれを解決する可能性と進むべき方向を議論することを通して、我が国全体が抱える幼児期の保育と教育の課題について一石を投じることを目的とする。

そこで登壇者として、多くの保育・幼児教育と学習指導要領改訂に関わる政府審議会や調査研究会の座長を務め、我が国の改革をリードする無藤隆氏、横浜市において全国に先駆け「待機児童ゼロ」を達成し「横浜版接続期カリキュラム」の実践に関わる寶來生志子氏をお迎えし、子育て新制度の可能性とスタートカリキュラムの課題について論じていただく。

また沖縄側からは、保育園を自ら経営し、那覇市みらい会議など、数々の委員を務める末広尚希氏、幼小連携を推進する沖縄県教育委員会義務教育課から宮國義人氏をお迎えし、沖縄の現状について報告していただく。

以上の登壇者からの提案をふまえ、フロアからの意見もいただきつつ、沖縄ひいては我が国の子育ての進むべき方向について提案していきたい。

## ラウンドテーブルⅠ

2016年6月5日(日) 15時30分～17時30分  
2号館 1階 2-100 教室

### 申込者氏名・所属

臼杵 百合子(日本医療保健大学)

### テーマ

人間教育・心の教育・性教育Ⅱ

#### 1) コーディネーター

山田 富秋(松山大学)

#### 2) 司会者

臼杵 百合子(日本医療保健大学)

#### 3) 提案・討論者

三角 正明(日本医療保健大学)

高木 茂子(雑誌編集者)

森居 あかね(臨床心理士・スクールカウンセラー)

森田 真弓(旭川市立朝日小学校 養護教諭)

宮崎 悦子(学校医 内科医)

早崎 里香(小児科医)

### 内容

前回(2015年、愛知教育大学)に続いて、「人間教育・心の教育・性教育」について考えるラウンドテーブルです。今回は、全国千校の中学校、高等学校養護教諭への性教育アンケート実施の報告。

教育現場からの現状報告、医療現場の現状報告と、多岐にわたり性教育を、心の教育・人間教育の観点から討論したいと思います。

## ラウンドテーブルⅡ

2016年6月5日（日）15時30分～17時30分  
1号館 2階 大会議室

### 申込者氏名・所属

宮内 洋（高崎健康福祉大学：ただし2016年3月末まで）

### テーマ

子どもの貧困：沖縄における若年層をもとに

### 1) コーディネーター

宮内洋（高崎健康福祉大学：ただし2016年3月末まで）

### 2) 司会者

同上

### 3) 登壇者

①話題提供者：上間 陽子（琉球大学）

②話題提供者：打越 正行（特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所）

③討論者：新藤 慶（群馬大学）

### 内容

現代日本社会においては主要な問題の一つである子どもの貧困について、参加者とともに議論を深めていきたい。そのために、今回の大会開催の地である沖縄県において、若年層に対する丹念な聞き取り調査を続けている二人の研究者をお招きし、その調査結果を発表していただき、机上の空論ではなく、その切実な質的調査結果から議論を深めていく。上間氏には過酷な環境に置かれる若年女性を中心に、一方の打越氏にはそのような若年男性を中心に報告していただく。ちなみに、打越氏は日本教育社会学会の学会誌のレビューでも大きく取り上げられたように、実際に暴走族の「バシリ」としてフィールドワークをおこなった国内でも稀有な研究者である。なお、本ラウンドテーブルは一部、JSPS 科研費 25590128 の助成による研究成果に基づいている。



### ラウンドテーブルⅢ

2016年6月5日(日) 15時30分～17時30分  
1号館 1階 1-118教室

#### 申込者氏名・所属

鬢櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)

#### テーマ

紙芝居の可能性を探る一次世代への伝承メディア

#### 1) コーディネーター

鬢櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)

#### 2) 司会者

川北 典子 (平安女学院大学)

#### 3) 提案者・討論者

①提案者：沖縄の紙芝居活動家の方々

②討論者：堀田 穰 (京都学園大学)

山本 聡子 (名古屋柳城短期大学)

#### 内容

戦後70年を迎えた昨年、沖縄では戦争体験を風化させないように、戦争を語り継ぐメディアとして、紙芝居を制作し活用している様子が報道されました。戦時下、国策紙芝居として戦争協力に用いられた紙芝居が、今日では平和な社会を希求するメディアとして活用されているのです。紙芝居が「大人から子どもへ」の伝達のすぐれたメディアであることの証ともいえるでしょう。沖縄で紙芝居活用された方々の実践事例を通して、体験を紙芝居にすること、そして演じることの意義についても考えてみたいと思います。

紙芝居の可能性について、今年も皆さんと語り合いたいと思います。

日本子ども社会学会 第23回大会 実行委員会

実行委員長	西本 裕輝	琉球大学
実行委員	馬居 政幸	馬居教育調査研究所
実行委員	宇江城奈美	琉球大学大学教育センターURGCC 推進支援室
実行委員	古堅 八紀	琉球大学大学教育センターURGCC 推進支援室
実行委員	前城 努	琉球大学大学院
実行委員	兼城 大	琉球大学大学院

日本子ども社会学会 第23回大会 プログラム

発行日 2016年5月15日  
編 集 日本子ども社会学会 第23回大会実行委員会  
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地（千原キャンパス）  
琉球大学 大学教育センター 西本裕輝 気付  
発 行 日本子ども社会学会事務局  
〒152-0004 東京都目黒区鷹番三丁目6番1号  
内外出版株式会社内



# ベネッセの調査・研究活動

ベネッセ教育総合研究所では、子どもたちのよりよい生活や育ちの環境、学習のあり方を追究していくために、子育て・教育のさまざまな側面に焦点をあてて調査・研究を行っています。

## ■ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究

「子どもの生活と学び」研究プロジェクト(親子パネル調査)

「子どもの生活と学びに関する親子調査2015」速報版

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、全国の小学1年生～高校3年生の子どもとその保護者約2万1千組の調査モニターを対象に、毎年1回以上の定期的な調査(親子パネル調査)を実施する共同研究プロジェクトを発足。

2015年7月に第1回調査(Wave1、子どもの生活と学びに関する親子調査2015)を実施し、12学年にわたる子どもの生活と学習、保護者の子育ての様子を明らかにした。今後も毎年、同じ子どもと保護者を調査し、親子の「成長・発達」の様子やその因果関係を明らかにしていく。※「子どもの生活と学びに関する親子調査2015」報告会(仮)を2016年7月17日(日)に東京大学大学院情報学環・福武ホールにて開催。

## ■ 第5回 学習基本調査

1990年に第1回調査をスタートし、2015年6月～7月に第5回調査を実施した。

小・中・高校生の25年間の学びの変化をデータでみることができる。

今回の結果からは、子どもたちの家庭学習時間の回復や宿題の増加、能動的な学習を好きと回答する子どもの増加、勉強の効用感の上昇や社会観・将来観の変化などがみられている。



ベネッセ教育総合研究所で実施している各調査結果は、以下のウェブサイトにてご覧いただくか、報告書などのタイトルでご検索ください。 \* 調査報告書の販売はしておりません。ご了承ください。

<http://berd.benesse.jp/>

## 第45回 教育展望セミナー

■大会主題：これからの時代に求められる資質・能力  
～学校教育の質を問う～

■日程：平成28年8月1日(月)、2日(火)

1日(月) 全体会

教育講演 養老 孟司(東京大学名誉教授)

パネルディスカッション

「これからの時代に求められる学校のあり方」

2日(火) 分科会

経営部会 ・「社会に開かれた教育課程」を視点にして学校経営を問う

・「チーム学校」を視点にして学校経営を問う

小学校部会 ・「アクティブ・ラーニング」を視点にして小学校教育の質を問う

・「カリキュラム・マネジメント」を視点にして小学校教育の質を問う

中学校部会 ・「カリキュラム・マネジメント」を視点にして中学校教育の質を問う

・「アクティブ・ラーニング」を視点にして中学校教育の質を問う

■会場：スクワール麹町

(JR中央線四谷駅 麹町口 徒歩30秒)

■参加費

2日間：14,400円、1日のみ：9,300円(含資料代)

■お申し込み

ご参加には事前のお申し込みが必要です。ご希望の方は当研究所まで、開催案内をご請求ください。

## 月刊「教育展望」

毎月1日発行  
A5判、448円+税

2016年 特集

5月号 これから求められる特別支援教育

4月号 カリキュラム・マネジメントとこれからの学校教育

3月号 これからの時代に求められる教師力

1・2月号 明日の教育課程を展望する

「教育展望」臨時増刊 セミナー研究討議資料  
A5判、2,381円+税

No.47(第44回教育展望セミナー) 2015年7月発行、124ページ

グローバル化社会の学校教育II～これからの社会に求められる資質・能力～  
No.46(第43回教育展望セミナー) 2014年7月発行、124ページ  
グローバル化社会の学校教育

## 研究紀要

第96号 小・中学校における「カリキュラム・マネジメント」の現状と今後の課題  
(予定) 2016年7月発行、B5判、96ページ、1,019円+税

第95号 小・中学校における「アクティブ・ラーニング」の現状と今後の課題  
2015年7月発行、B5判、122ページ、972円+税

第94号 小・中学校の教育課程実施状況の実態と今後の課題  
2014年6月発行、B5判、108ページ、1,019円+税

第93号 小・中学校のリーダーシップを育む指導の実態と課題  
2013年7月発行、B5判、96ページ、952円+税

一般財団法人 教育調査研究所

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

TEL: 03-3238-6974 FAX: 03-3238-6975 E-mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

## 「児童文化」の誕生と展開

大正自由教育時代の子どもたちの生活と文化 別冊複製2 「小鳥の家」「赤い実」

加藤理著 菊判上製函入／864頁／■12000円

◎本書は近世後期から、明治、大正、昭和初期と、埋もれていた当時の資料を発掘し、壮大なスケールで多岐にわたって詳細に論証、近代の「児童文化」の理念と実態を明らかにした画期的な力作。別冊に、幻の雑誌といわれる「小鳥の家」後藤隆編輯発行、「赤い実」金野細雨編輯発行を収録。第39回日本児童文学学会賞受賞。

## ポスト三・一一の子どもと文化

いのち・伝承・レジリエンス

加藤理、鶴野祐介編著 A5判並製／400頁／■4000円

◎「ポスト三・一一」の喫緊の課題として子どもと文化を考え、「センス・オブ・ワンダー」「アニメーション」「共生・共死」「うたと語り」「伝承」といったコンセプトにもとづき、あらたな児童文化論を提言する。エッセイ、論考21編を収録。

叢書 児童文化の歴史 全3巻

第1巻 収録文献25点

## 児童文化の原像と芸術教育

加藤理編 A5判並製／280頁／■3500円

◎大正期から昭和12年まで、誕生期・黎明期の児童文化の歩みを明らかにする。

第2巻 収録文献35点

## 児童文化と学校外教育の戦中戦後

加藤理、川勝泰介、浅岡靖央編 A5判並製／584頁／■5700円

◎戦中戦後二十年間を対象に、激動の時代における児童文化の変遷を探る。

第3巻 収録文献22点

## 児童文化と子ども文化

加藤理、鶴野祐介、遠藤純編 A5判並製／464頁／■4800円

◎六〇年代から現代までの児童文化を辿る。

## 初山滋奇人童画家

上至一郎著 A5判函入／本文216頁／■3500円

◎絵本『もず』で知られる童画家・初山滋の生涯と、その美の世界を慈しみをこめて語る。初山滋評伝の決定版で、上至一郎の最後の著作となった。

## 港の人

鎌倉市由比が浜3-11-49 T-248-0014  
電話 0467-60-1374 ファックス 0467-60-1375  
<http://www.minatomotohito.jp> 定価＋税別

現代社会と子どもの生・経験・自己形成

**子ども・若者の自己形成空間**―教育人間学の視線から

高橋勝著 A5判・上製・三二二頁・二七〇〇円

**子どもが生きられる空間**―生・経験・意味生成

高橋勝著 四六判・上製・二七二頁・二四〇〇円

**流動する生の自己形成**―教育人間学の視界

高橋勝著 四六判・上製・二七二頁・二四〇〇円

**文化変容の中の子ども**―経験・他者・関係性

高橋勝著 四六判・上製・二四〇頁・三三〇〇円

**発達障害支援の社会学**―医療化と実践家の解釈

木村祐子著 A5判・上製・二四〇頁・二六〇〇円

**生活世界に織り込まれた発達分化**―人間形成の全体史への道

青木利夫・柿内真紀・関啓子編著 A5判・上製・二八〇頁・二八〇〇円

**アメリカ映画における子どものイメージ**―社会文化的分析

C・M・ジャクソン著 四六判・上製・三三六頁・二五〇〇円

**子どもの道くさ**

水月昭道著（居住福祉ブックレット7） 四六判・並製・八八頁・七〇〇円

**精神科医がめざす近隣力再建**―進む「子育て砂漠化」はびこる「付き合い拒否症候群」

中澤正夫著（居住福祉ブックレット10） 四六判・並製・八〇頁・七〇〇円

学校の社会的使命に関する総合的歴史研究

**アメリカ公立学校の社会史**―コモンスクールのW・J・リース著 小川佳万・浅沼茂監訳 A5判・上製・五二八頁・四六〇〇円

マナーの本質と機能をめぐる理論の新たな展開

**マナーと作法の社会学** 加野芳正編著 四六判・並製・二八〇頁・二四〇〇円

**マナーと作法の人間学** 矢野智司編著 四六判・並製・二二六頁・二〇〇〇円

新たな教育理念・学習・実践の展開

**社会を創る市民の教育**―協働によるシティアン

大友秀明・桐谷正信編著 A5判・並製・二七二頁・二四〇〇円

**社会科は「不確実性」で活性化化する**―未来を開くコミュニティ型授業の提案

吉永潤著 A5判・上製・一九二頁・二四〇〇円

**社会形成力育成カリキュラムの研究**―社会科公設校における小中高一貫の政経学習

西村公孝著 A5判・上製・五二〇頁・六五〇〇円

**アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング**

唐木清志著 A5判・上製・三八四頁・四六〇〇円

**メディア・リテラシー教育における批判的な思考力の育成**

森本洋介著 A5判・上製・三三六頁・四八〇〇円

**協同と表現のワークショップ**―学びのための環境のデザイン（第二版）

編集代表 茂木一司 A5判・並製・二八〇頁・二四〇〇円

**文字を手書きさせる教育**―「書写」に何ができるのか

鈴木慶子著 A5判・並製・二六四頁・二四〇〇円

**視写の教育**―へからだに読み書きさせる

池田久美子著 A5判・並製・二四〇頁・二四〇〇円

**3・11日本当は何が起こったか：巨大津波と福島原発**

科学の最前線を教材にした暁星国際学園「3・11研究の森コース」の教育実践

丸山茂徳監修 四六判・並製・二二四頁・一七一四円

**「エネコロ」国際教育政策叢書全12巻（各A5判・並製）505**

紛争・災害後の教育支援 Mシンクレア著 一六八頁・一六〇〇円

熟・受験指導の国際比較 M・ブレイン著 一五二頁・一五〇〇円

幼児教育への国際的視座 D・ワイカート著 二二八頁・二〇〇〇円

小松太郎訳・解説 一六〇〇円

鈴木慎一訳・解説 一五二頁・一五〇〇円

浜野隆訳・解説 二二八頁・二〇〇〇円

**教育の基礎と展開**

—豊かな保育・教育のつながりをめざして

高野良子・武内清 編著

A5判 200頁 本体2000円

**ジェンダー化社会を超えて**

—教育・ライフコース・アイデンティティ

望月重信・春日清孝・原史子 著

四六判 234頁 本体2300円

**大学生のキャリアとジェンダー**

—大学生調査にみるキャリア支援の示唆

谷田川ルミ 著

A5判 196頁 本体2700円

**男子問題の時代?**

—錯綜するジェンダーと教育のポリテイクス

多賀太 著

四六判 240頁 本体2200円

**災害と子ども支援**

—復興のまちづくりに子ども参加を

安部芳絵 著

四六判 264頁 本体2300円

**入門 子供の活動支援と青少年教育ボランティア**田中壮一郎 監修  
鈴木眞理・馬場祐次朗・松村純子 編

A5判 248頁 本体1500円

アクティブラーニングを取り入れた

**子どもの発達と音楽表現**

幼稚園教諭・保育士養成課程

村上玲子・櫻井琴音・上谷裕子 編著

B5判 196頁 本体2400円

**子どもと教育と社会**

教師のための教育学シリーズ⑩

教師のための教育学シリーズ編集委員会 監修  
腰越滋 編著

A5判 202頁 本体2100円

**日本の教育を考える**

第三版

—現状と展望

望月重信・播本秀史・岡村秀忠 編著

A5判 248頁 本体2500円

**育児不安の国際比較**

深谷昌志 編

A5判 208頁 本体2000円

**未来を拓く子どもの社会教育**上杉孝實・小木美代子 監修  
立柳聡・姥貝莊一 編著

A5判 356頁 本体3000円

**教育社会とジェンダー**

河野銀子・藤田由美子 編著

A5判 200頁 本体2100円

**子ども社会シリーズ**A5判 約190頁  
本体各2000円

子どもの発達に関わる諸問題を6つの領域から多角的に考察し、「社会で育てる」ことをめざし、現代の“子ども”を読み解く。

住田正樹・武内清・永井聖二 監修

第1巻 **子どもと家族** 住田正樹 編第2巻 **幼児教育の世界** 永井聖二・神長美津子 編第3巻 **子どもと学校** 武内清 編第4巻 **子どもと地域社会** 住田正樹 編第5巻 **子どもの「問題」行動** 武内清 編第6巻 **消費社会と子どもの文化** 永井聖二・加藤理 編  
改訂版

# 自由な立場から。

私たちは、日本における教育の内容、方法、過程などに関する基礎的な調査研究を行い、  
教育の進歩改善に寄与すると共に、21世紀以降に求められる教育の  
グローバル化に対応する理論と実践の創造ならびに普及に貢献しています。



公益財団法人 **中央教育研究所**

〒114-0004 東京都北区堀船2-17-1  
Tel.03-5390-7488 Fax.03-5390-7489  
ホームページ=<http://www.chu-ken.jp/>

E-mail:[chu-ken@nifty.com](mailto:chu-ken@nifty.com)